

羽曳野荘だより

チャリティ蕎麦会特集号

児童養護施設 羽曳野荘

平成21年10月発行

達磨の会 チャリティ蕎麦会 今年も多くのご支援ありがとうございます

今年もチャリティ蕎麦会に大勢のご参加を賜り心より御礼申し上げます。名人高橋邦弘さんの最高の二八蕎麦をご堪能下さい。

このチャリティ蕎麦会も今年で11回目を迎えました。「施設で生活している子ども達を応援しよう」という岡藤ご夫妻のかけ声に、名人高橋氏の全面的なご協力「湯遊友」の方々のサポート、趣旨にご賛同いただいた企業、そして地域の皆様のご理解ご支援でここまで開催して頂いています。

チャリティでご協力いただきました基金は老朽化しております建物の建て替え資金としてお預かりをしています。立て替え計画も順調に進んでおり、予定では来年の秋には工事を始めることができる、というところまで進んでいます。

最後になりましたが、このチャリティ蕎麦会に関わって下さっている多くの皆様に心から感謝をし、我々役員・職員一同はこれからも施設で生活する子ども達が安心して安全に暮らすことができるとともに地域の子育てにもなお一層の支援ができるよう頑張ってお参ります。今後ともご指導ご支援のほど、よろしくお願い致します。



園長のちょっと聞いて！ 「いば、変身」のまき！



先日、大阪市内で3歳の女の子が里親から虐待を受けたという事件が報道されました。親にも大切にされず、やっと大切にしてもらえと思った里親さんから虐待を受けた子どもの心の傷は、私達の想像を遙かに超えるものに違いありません。では、どうしてこのような虐待は後を絶たないのでしょうか。一言でいうと「子育ての環境が崩壊」しているのです。昔は大家族で子どもを育て、地域も力を合わせて子どもを見守っていました。しかし現代は核家族が定着し、一人親家庭も増加、地域の関係も希薄になり子育てのサポートが無いという状況です。そんな中で一生懸命子育てをしている母親は孤立した子育てを強いられ、悩み苦しむ虐待が起きるのです。虐待をする親も犠牲者なのです。毎日施設の子どもだけではなく地域の子ども達とも関わっていると、「子育ての危機」は日増しに高まっています。「何とかしなくてはいけない」ことはみんな分かっているのです。しかしどうしていいかわからない、自分だけやっても仕方がないと諦めている人が多いのかもしれない。できることなら昔にタイムスリップしたいところです。「いやいや」、そんな冗談を言ってる場合ではなさそうです。まずは、みんなで「心の変身」をしましょう！

子どもさわやか賞を受賞！

羽曳野荘では、「何か社会のお手伝いはできないか」を子ども達と考え、地域のボランティア清掃を続けています。最初は平成8年に石川クリーン作戦が開催され、それに子ども達と職員が参加したところから始まりました。石川クリーン作戦にはそれ以来毎年参加しています。またお世話になっている八幡宮の清掃や最近では地域の公園や通学路の清掃を行っています。このような活動が評価され今年の5月に大阪児童福祉協会より、「子どもさわやか賞」をいただきました。これを励みにこれからも子ども達と「社会のお手伝い」をしていきたいと思ひます。

